

日鐵全従業員の賞與を減額して 増配をすることは何事ぞ！

この増配こそは國家的重要製鐵産業を 破壊する第一歩だ！！

△この選舉を従業員は許して置けるか！

△昭和八年春、日鐵會社法案の議會上程に當り、八幡製鐵所全従業員が前後四ヶ月間に亘り、精神的に、物質的に血の戦ひをした製鐵官民合同反對の運動で、我々全従業員を代表して東京へ送つた百八名の
上京委員に對し、當時の齋藤首相、中島商相、その他關係當局者は何んと答えたか！

△全従業員は一人だつて、その回答の言葉を忘れてはならないぞ！

△中島商相は「配當は大体、公債利子を基礎とする」と我々に答え、且つ議會でも答辯したではないか！

△今日の公債利子は年四分が普通だ！日鐵會社法では年六分以上は絶対に配當が出来ぬことに決められてゐるが、軍需インフレで鐵工業の景氣が良かった關係もあつたであろうが、會社は成立の當初から年六分の配當をやつてゐる。

△この六分でも公債の利子より二分高いではないか！我々は六分でも既に高配當だと思つてゐる。それを今度は、我々従業員の賞與をへして、七分の配當をしようと云ふのだ！

△こんな亂暴が我々従業員の前でやられる事か！

△更に従業員の待遇に就いて中島商相は何んと言つたか！

△「會社に利益があつたら、先づ従業員の待遇をよくして、それからなければ、配當のことは考へない」と明確に我々従業員に代表者に答へたではないか！

△それなのに、無方針、無定見な政府は國民並に八幡製鐵所全従業員に對して明言した「公約を眞切に、民間資本家の陰謀策を受け容れて、今回、我々の年々賞與を減額して二分の増配をやる」とは何んたる暴言だ！何んたる不償だ！政府がかゝる二枚舌を使つて許されるのか！

△日鐵會社は軍需インフレで莫大な儲けをしてゐる。然るに我々従業員の待遇は少しも良くなつたか！

△「我々を製鐵事業が國家、國防上最も重要な産業であればこそ、製鐵産業の健全なる國家的維持、發展を希ひ、忍び難きを忍んで、我々の待遇の問題に就いては、今日までジイット自重して來たのだ！」

△従業員全體の意向は勿論、

一、中元年末賞與の増額

一、退職手當金の増額

その他一般待遇條件の改善を熟望してゐる。

△會社が一分の増配をやる位なら、中島商相が我々従業員に回答した通りに實行して、先づ従業員

の待遇を改善させよう！我々の待遇は放りばなしにして置いて、株主だけに増配するが如きことは我々は死を以ても阻止せねばならぬ。

△然も、日鐵の今期の利益は減少してゐる。それにも拘らず無様な配當をすることは何事だ！

△軍需景氣だ！インフレ景氣だと言つてゐるが、この景氣もそう何時までも永續するとは何人と雖も保証することは出来ぬ。一朝、不景氣が來て、幾ら儲いで廻つても無駄だ！

△かゝる無様な増配の如き不健全な、不誠實な經營の方針こそ、國營の精神を以て守らねばならぬ

國家の最も重要産業を根本的に破壊する第一歩となるのだ！

△我々は單に従業員だけの利己的な、一方面的利益のためにかく叫ぶのではない。

△報國産業と製鐵國營は我々の信念だ！國家の最も重要産業たる製鐵事業を國營と同一精神を以て守ることは我々の生命だ！

△全従業員は猛然立て！

△我々が會つて製鐵官民合同反對運動に依つて示された國家産業に對する八幡製鐵所全従業員の光輝ある意氣と熱と實力を以て、報國産業の建前に立ち、無様な一分増配を粉砕せよ！

△我々は諸君と共に立ち、諸君の先頭に立つてこの暴舉を踏み潰すまでは一步も退かず、如何なる犠牲を拂つても徹底的に戦ひ抜く決意と準備をしてゐる。

△この戦こそは國家産業を守り、全従業員の生活を守る正義の戦だ！

全従業員は擧げて無様な一分増配粉砕の我々の戦列へ参加せよ！

日本製鐵従業員組合

第二回執行委員會

八幡市西彌生町
電話一三九三番